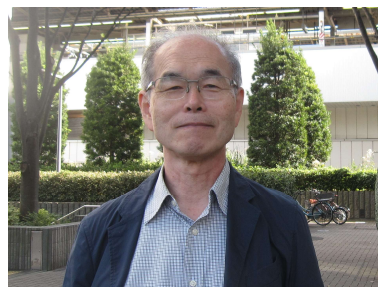


Y O K O H A M A



R I G A O K A

百周年を迎えて 片倉 正一



生徒として3年、職員として9年、非常勤1年、計13年を緑高で過ごしました。そして今、百周年記念誌の編集スタッフとして作業をしています。今回はこの作業を通して知った本校の「六十年史」について紹介したいと思います。

かねてからこれが大変素晴らしい内容であることが知られていましたが、今回編集作業に当たって再度熟読し、改めてその内容の貴重なことと校史として非常に本格的な内容であることを確認しました。しかし残部がわずかしか残っていません。そこで、今回の百周年史の編纂に当たって、最初の六十年分は全てこの「六十年史」を、完全にそのまま再掲することにしました。三中・緑高が創立からどんな苦難を経て今日に至ったか、それは関東大震災、空襲、そしてGHQによる校地接收と、これだけの苦難を全て経た高校は県内にありませんが、その様子が多面的に資料を駆使して記されています。また戦争中の配属将校による軍事教練、勤労働員など、戦争によっていかに当時の教育が歪められたかが詳しく記されており、同種の本の中でも出色のものとなっております。是非、皆さんにお読みいただきたく、現在編集作業を続けております。

1953年福島県生まれ
緑高を1971年卒業（高校23期）
1975年より神奈川県立高校の数学科教員として勤務
2004年4月から2013年3月まで9年間と、定年退職後の1年間を非常勤講師として合計10年間緑高に勤務

